A photograph of a narrow alleyway between residential buildings in a dense urban area. The alleyway is paved with asphalt and concrete, and the buildings on either side are multi-story structures with balconies and various pipes and wires visible. The scene is brightly lit, suggesting daytime. A semi-transparent orange banner is overlaid across the middle of the image, containing the title text.

# 地方都市における密集市街地の 居住環境と住民の防災意識に関する研究

大分大学工学部福祉環境工学科建築コース  
建築・都市計画研究室 1056024 坂本 綾香

# 第1章 1-1 背景

《昭和25年》

## 接道義務 (建築基準法第43条)

建築物の敷地は幅員4m以上の道路に2m以上接しなければならない。

**建替え困難な建物が残存  
建物更新ができず、老朽化した建物が密集**  
(延焼性、避難経路の確保といった面において危険な環境)

《平成11年》

「**連担建築物設計制度** (平成11年)」

《平成20年》

「**都市防災総合推進事業** (平成20年)」

などが施策として制定

別府市

**重点密集市街地** (指定面積規模は1ha以上)  
「**浜脇3丁目** (1.05ha)」

《 現在 》

**指定規模要件に達していない市街地にも  
危険箇所が点在している**



事業による密集市街地整備  
→ 地権者の合意形成・資金  
住民の負担大

高齢化、空き家の増加等  
→ 住民の改善意向は低い

密集市街地整備が進んでいない

狭い範囲で、住民一人一人の意識や建物・道の状況を把握し、地域特有の改善方法を見つける必要がある。

- 居住者や空き家などの物理的情報
- 改善の意欲などの心理的情報

必要なサポートや  
改善に向けたプロセス、課題  
を明らかにすることを目的とする。

# 第1章 1-3 研究の方法

## ①危険街区から1街区を選定

## ②現地調査

利用用途・空き家の数・街区内  
工作物の位置などの情報把握

## ③ヒアリング調査

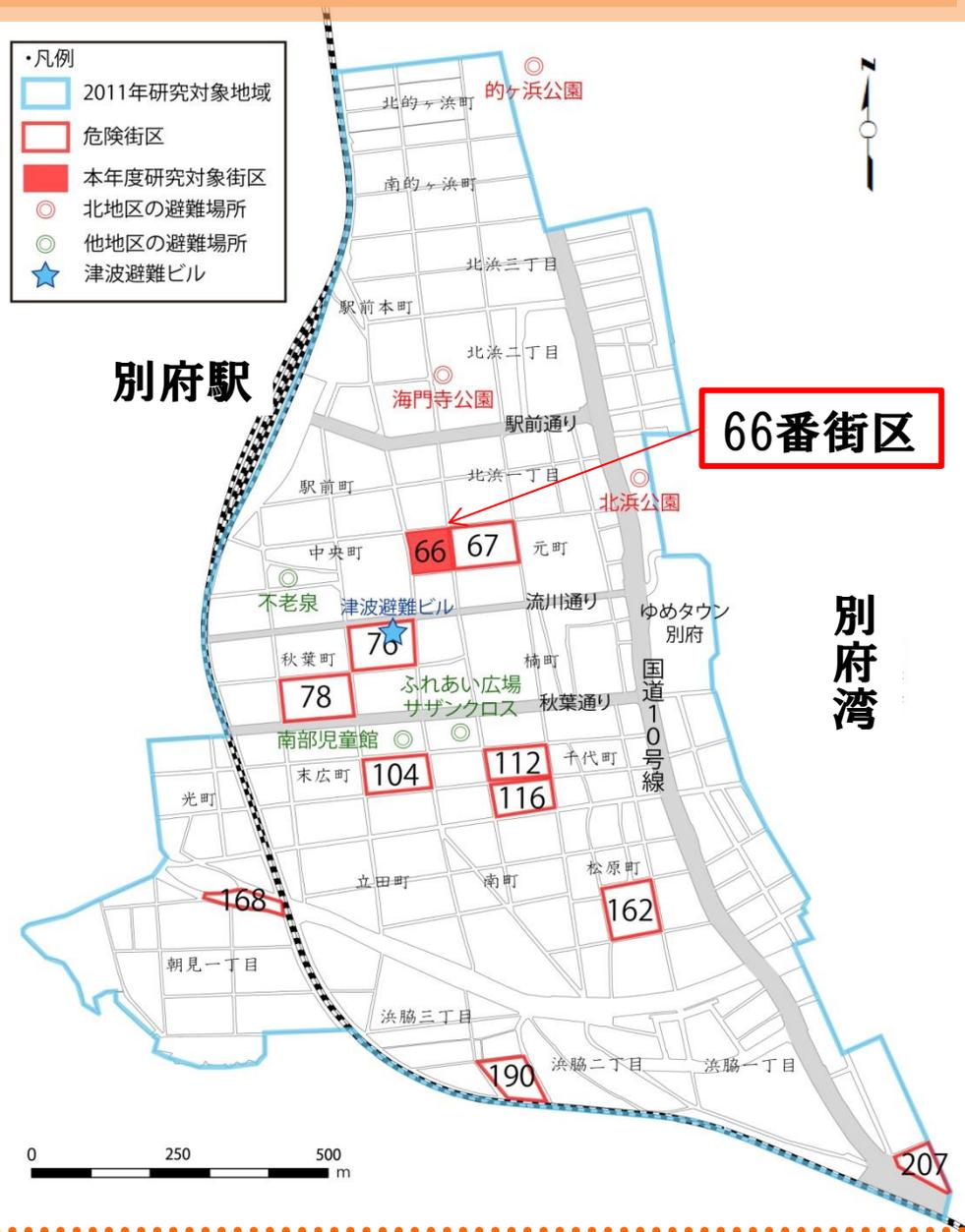
防災意識や改善意識などの意識把握

## ④情報提供

- ・②③で得られた情報の提供
- ・災害時の避難情報、整備・清掃活動の提案

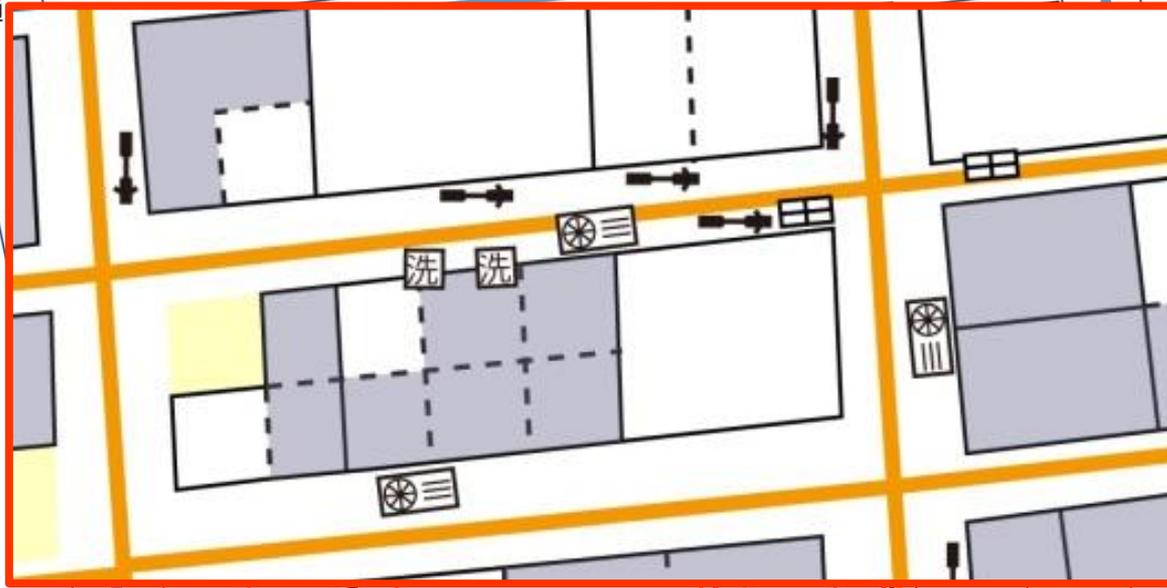
## ⑤防災意識調査

防災意識変化の考察



# 第2章 2-1 対象街区の特徴と危険性

## 66番街区



街区内路地の様子



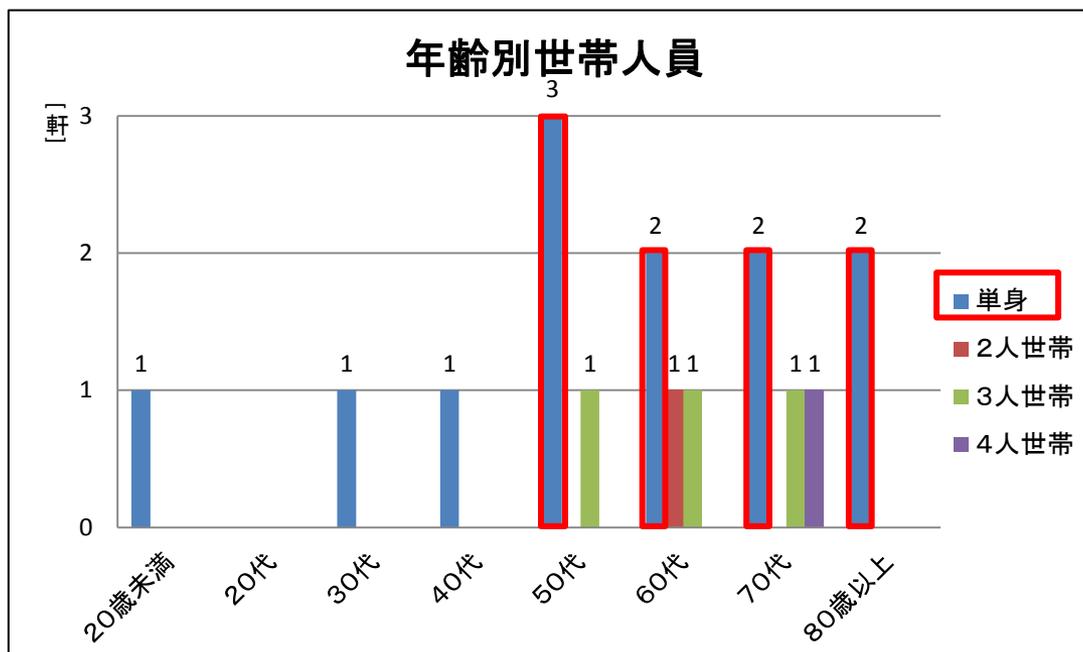
空き家



- 工作物等
- 塀・フェンス
  - 街区内道路(路地)
  - Ⓜ 電柱
  - Ⓛ 街灯
  - ⊗ 室外機
  - ⊗ 壁付室外機
  - ← 自転車・原付
  - 洗 洗濯機
  - ⊞ 棚・台
  - ⊞ 自販機
  - ⊗ ガスボンベ
  - ⊘ 標識

街区ID	総合評価	延焼の危険性(2指標以上該当)			避難の困難性(1指標以上該当)		倒壊の危険性	今後の更新の可能性
	4	●			●		●	●
66	街区面積 (㎡)	木防率 (2/3以上)	戸数密度 (80戸/ha以上)	有効空地面積率 (25%未満)	接道不良棟数率 (50以上)	通り抜け路地数 (路地のない街区)	老朽棟数率 (50%以上)	建て替え困難棟数率 (20%以上)
		4539.34	87.14	185.05	18.74	52.857	1	87.143

## 第2章 2-4 街区利用者の属性把握



		50代	60代	70代	80歳以上	12			
世帯人員	单身	3	2	2	2	12			
	割合	17.65%	11.76%	11.76%	11.76%	59%			
	割合	-	-	5.88%	-	5.88%			
	3人世帯	-	-	1	1	3			
	割合	-	-	5.88%	5.88%	17.65%			
	4人世帯	-	-	-	1	1			
	割合	-	-	-	5.88%	5.88%			
合計	1	0	1	4	4	17			
年齢別の割合	5.88%	0.00%	5.88%	5.88%	23.53%	23.53%	23.53%	11.76%	100.00%

### 第3章 3-2 街区利用者の防災意識

	回答項目	回答数	割合
	建物の古さ、倒壊	9	60.00%
危険を感じる箇所	ない、わからない	3	20.00%
	上からの落下物	2	13.33%
	路地の段差、狭さ	1	6.67%
	合計	15	100.00%
	よくしたい	2	12.50%
	よくなってほしいがあきらめている	12	75.00%
	よくしたいと思わない	2	12.50%
	合計	16	100.00%

「整備事業による抜本的な改善」

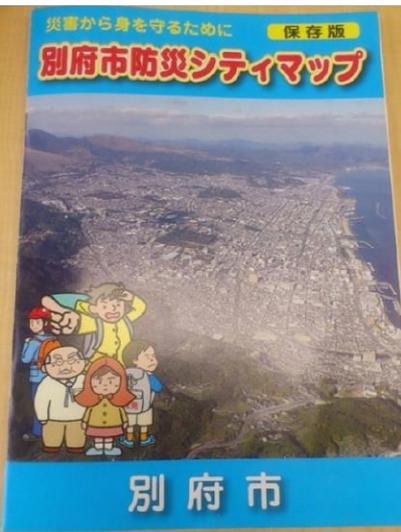


「確実に命を守る避難」

# 第3章 3-2 街区利用者の防災意識

	利用継続年数	10年未満		10～29年		30～49年		50年以上		合計	割合
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
防災マップ	知っている	4	30.77%	1	7.69%	4	30.77%	4	30.77%	13	76.47%
	知らない	2	50.00%	2	50.00%	0	0.00%	0	0.00%	4	23.53%
家庭内の防災対策	している	2	25.00%	0	0.00%	3	37.50%	3	37.50%	8	47.06%
	していない	4	44.44%	3	33.33%	1	11.11%	1	11.11%	9	52.94%
近隣住民の顔	ほとんどわかる	2	16.67%	2	16.67%	4	33.33%	4	33.33%	12	70.59%
	数人ならわかる	2	66.67%	1	33.33%	0	0.00%	0	0.00%	3	17.65%
	全くわからない	2	100.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	11.76%

## 防災マップ



- 防災対策の具体例-
- ・非常持ち出しバッグ
  - ・水のストック
  - ・消火器
  - ・貴重品のとりまとめ
  - ・非常食や懐中電灯

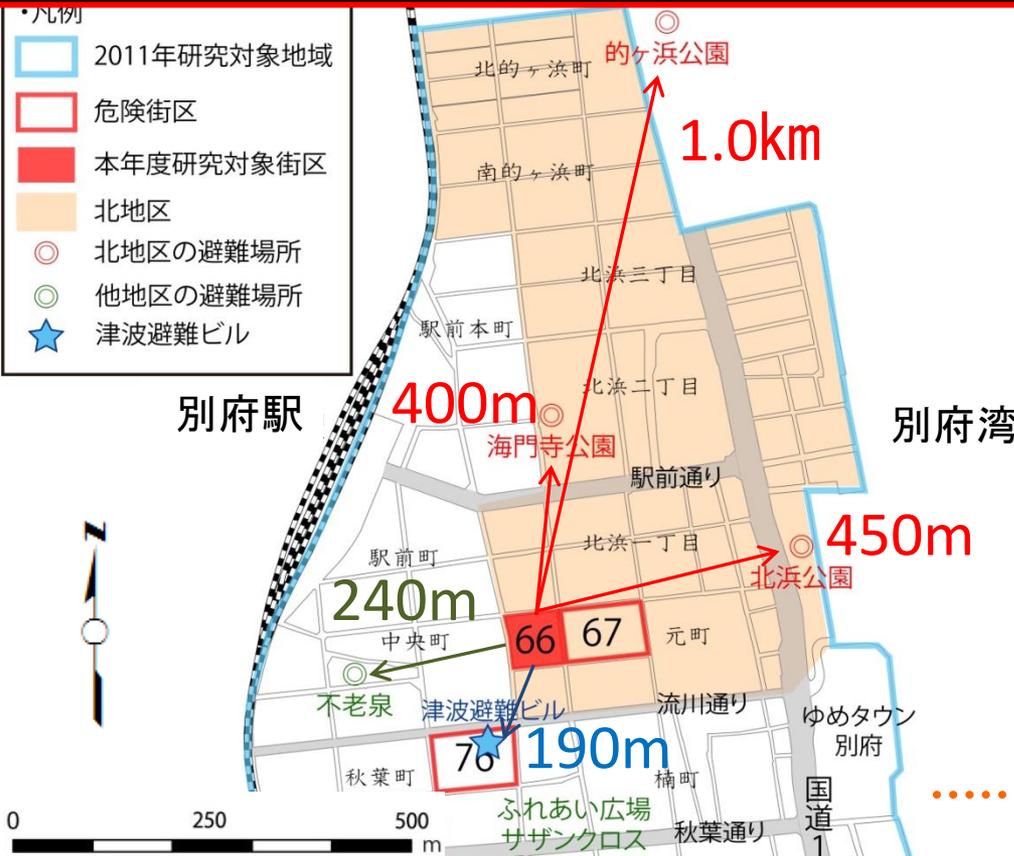
利用継続年が長いほど  
防災意識が高い

# 第3章 3-2 街区利用者の防災意識

回答項目		件数[件]	割合	件数[件]	割合	理由
避難訓練	あり	2	50.00%	4	26.67%	<ul style="list-style-type: none"> <li>海に近い避難場所への訓練で必要性を感じなかったから</li> <li>別府駅よりも上の場所へ行く訓練で遠かったから</li> </ul>
	今後参加しない	2	50.00%			
なし				11	73.33%	<ul style="list-style-type: none"> <li>合が合わなかったから</li> <li>が悪いから</li> <li>路が回ってこなかったから</li> <li>末がないと思うから</li> </ul>



避難場所の見直し  
避難訓練の工夫



## 第4章 4-3 防災意識調査の結果

ヒアリング調査	第1回			第2回		
	回答項目	回答数	割合	回答項目	回答数	割合
家庭内の防災対策	している	<b>新たに、対策をしたい</b>		1	8.33%	
		今後やる予定はない	5	41.67%		
	していない	<b>新たに、対策をしたい</b>		0	0.00%	
		今後やる予定はない	6	50.00%		

変化はみられない

	回答項目	回答数	割合
初めて知ったこと (複数回答可)	<b>ない</b>	6	46.15%
	空き家の多さ	0	0.00%
	<b>津波避難ビルの存在</b>	5	38.46%
	津波意見		

その

- ・避難ビルまでの距離であれば避難しようと思う。
- ・ホテルアーサーに逃げようと思う。

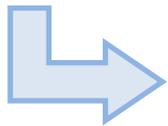
## 第4章 4-3 防災意識調査の結果

	回答項目	回答数	割合	意見
	実行したい	2	16.67%	<p>50%</p> <p>ない。 ではどうしようもない。</p>
	実行できない	4	33.33%	
経路の確保	必要がない	6	50.00%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそも汚れていない。</li> <li>・使っているものしか置いていない。</li> <li>・現状のままでよい。</li> </ul>
	合計	12	100.00%	

半数の人が避難経路の確保に前向きである

### 現地調査, ヒアリング調査から・・・

- ・整備事業による改善は望んでいない。
- ・避難に着目する必要がある。

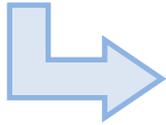


避難場所の見直しや避難訓練の工夫が必要

街区単位やそれより小さな範囲で、  
避難場所や待ち合わせ場所などを設定

### 情報提供後の意識調査から・・・

- ・街区利用者は街区のことを熟知している。
- ・大きな意識の変化はみられなかった。



津波避難ビルの認知度UP

→避難場所の選択肢が増えた  
避難経路確保の提案

→半数の前向きな反応

- ①日常の会話で、街区利用者間の情報共有
- ②街区利用者以外からの情報の提供
- ③提案



災害時に円滑な避難ができる環境を  
整えることができると考えられる。



ご清聴ありがとうございました。

市街地チーム 1056024 坂本 綾香

2013.12.14